

腸管出血性大腸菌（O157）感染症の 集団発生の状況及び注意喚起について

令和 7 年 10 月 23 日（木）16 時頃、山形市内の医療機関より腸管出血性大腸菌（O157）の複数人の患者発生（同一高校の生徒）の連絡が山形市保健所がありました。

山形市保健所でこれまで調査していましたが、有症状者はすべて市内の高校に在籍する高校 2 年生で、10 月 14 日（火）から 17 日（金）に沖縄県に修学旅行に行っていることがわかりました。

10 月 29 日（水）現在で計 21 人が腹痛、下痢、血便などの症状を呈しております。そのうち 10 人の腸管出血性大腸菌（O157）感染が確認されており、5 人が入院（退院者を含む）しています。

本日、沖縄県が沖縄県内の営業施設を原因とする食中毒の発生について発表したことを受け（別紙参照）、山形市保健所といたしましても、発生状況のお知らせと感染拡大防止の注意喚起を行うものです。

【発生状況】

（令和 7 年 10 月 29 日現在）

修学旅行参加者	有症状者数	入院者数（内数）
生徒 46 人	21 人（10）	5 人（5）
職員 2 人	0 人（0）	0 人（0）
合計 48 人	21 人（10）	5 人（5）

※（ ）内は O157 検出人数

【市民の皆様への注意喚起】

O157 に代表される腸管出血性大腸菌は、下痢や血便などの症状を起こすだけでなく、乳幼児や小児、基礎疾患のある高齢者では、まれに急性腎不全、貧血、溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こし、命にかかわることもあります。

また、腸管出血性大腸菌は感染力が強く、人から人への二次感染を起こすこともあります。

つきましては、感染予防の観点から日常的な手洗いの励行や食品の適切な取扱い等により、腸管出血性大腸菌感染症予防に努めていただきますようお願いいたします。

【参考】

○腸管出血性大腸菌について

腸管出血性大腸菌感染症は、初夏から初秋は多く発生する時期であり注意が必要です。また、気温の低い時期でも発生が見られます。家畜や感染者の糞便を通じて汚染された食品・食器・手指等を介して、口から感染します。症状には個人差がありますが、下痢、腹痛、血便、発熱などの症状がみられ、重症になると溶血性尿毒症症候群（HUS）※を引き起こすことがあり、特に抵抗力の低い乳児や高齢者に注意が必要な感染症です。外出や排便の後の手洗い、食肉等は十分に火を通すことなどによる感染予防が大切です。

※溶血性尿毒症症候群（HUS）

O157などの腸管出血性大腸菌に感染することによって貧血、血小板減少、急激な腎機能の悪化などが引き起こされる病気

○感染防止のための注意点

- 1 帰宅後、食事前、トイレやおむつ交換の後は、手・指を石けんと流水でよく洗う。
- 2 動物とふれあった後には、必ず、石けんを用いて十分に手洗いを行う。
- 3 腸管出血性大腸菌も、食中毒原因菌のひとつです。以下の項目についてもご注意ください。
 - ・生で食べる野菜などと、加熱する肉などを一緒に調理しない。まな板や包丁などを別々にする。
 - ・加熱調理を十分に行う（中心部が75℃で1分以上）。
 - ・調理器具を清潔に保つ。必要に応じて熱湯や漂白剤で消毒する。
 - ・バーベキューや焼肉等をするときには、肉を焼く箸と食べる箸を別々にする。

【本件に関するお問い合わせ】

〒990-8550 山形県山形市城南町一丁目1番1号

山形市健康医療部 精神保健・感染症対策室 感染症予防係

TEL 023-616-7274（直通）

FAX 023-616-7276

E-mail seishin-hk@city.yamagata-yamagata.lg.jp